

平成17年3月29日

上海大陽日酸気体で新プラント竣工

大陽日酸株式会社（社長：田口 博）の中国子会社である、上海大陽日酸気体有限公司（総経理：藤田 篤弘）では、この度 MMG20000型空気分離プラントが竣工し、工場の開業式を挙行いたしましたのでお知らせします。

1. 背景

成長著しい中国に対する海外からの投資は増加の一途をたどり、中でも華東を代表する上海地域では半導体・液晶などエレクトロニクス関連をはじめとする各種製造業の進出が見込まれることから、エレクトロニクス向けの高純度窒素や各種産業ガスを安定的に生産・供給する空気分離プラントの建設を進めてまいりました。

2. プラント概要

この度竣工した MMG20000型空気分離プラントは、上海広電NEC液晶显示器向けに高純度窒素ガスをパイプラインで供給するとともに、上海地域のユーザーに対しては高純度の液化酸素と液化窒素をタンクローリーにより供給いたします。

MMG20000型空気分離プラントの生産能力は以下のとおりです。

液化酸素	: 2, 300Nm ³ /h
液化窒素	: 4, 000Nm ³ /h
窒素ガス	: 8, 000Nm ³ /h
液化アルゴン	: 145Nm ³ /h

3. 開業式

3月16日に上海市閔行区所在の上海大陽日酸気体本社で開業式を挙行し、大陽日酸から松枝副社長、伊東専務などの幹部や取引先関係者など約180人が出席しました。

開業式に於いて、松枝副社長は「大連に続き、発展著しい上海に新たな生産拠点を持つことの意義は大きい。“産業の米”といわれる産業用ガスの供給を通じ、中国において大いに成長しているエレクトロニクス関連をはじめ、鉄鋼、造船、石油化学、食品などさまざまな産業発展に貢献していきたい。」と今後の事業展望への抱負を語りました。

以上



開業式（中央に松枝副社長）



工場全景